

平成 26 年愛媛県感染症発生動向調査事業

細菌科 ウイルス科 疫学情報科

愛媛県感染症発生動向調査事業要綱(平成 13 年 1 月 1 日施行)に基づき、一類から五類感染症及び新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、疑似症の 115 疾患(全数把握対象 87 疾患、定点把握対象 28 疾患)について発生動向調査を実施している。このうち定点把握対象疾患については、86 患者定点から患者情報を収集し、20 病原体定点から病原体情報を収集している。

当所は「愛媛県基幹地方感染症情報センター」として、病原体を含めた県内全域の感染症に関する情報の収集・分析を行い、その結果は「愛媛県感染症情報」及び「愛媛県感染症情報センターホームページ(<http://www.pref.ehime.jp/h25115/kanjyo/>)」等により、迅速に還元・公開している。

1 患者発生状況

(1) 全数把握対象疾患

〔感染地域、感染経路については、確定あるいは推定として届出票に記載されたものを示す。〕

・一類感染症

7 疾患の患者報告はなかった。

・二類感染症

7 疾患のうち 1 疾患、結核 237 人の届出があり、患者 190 人、無症状病原体保有者 46 人、感染症死亡者 1 人であった。性別は男性 118 人、女性 119 人で、年齢は 10 歳未満 2 人、20 歳代 10 人、30 歳代 9 人、40 歳代 16 人、50 歳代 29 人、60 歳代 27 人、70 歳代 51 人、80 歳以上 93 人であった。なお詳細については、「結核登録者情報システム」のデータを基に、別項に掲載した((3)結核 参照)。

・三類感染症

5 疾患のうち 1 疾患、腸管出血性大腸菌感染症 8 事例 10 人(いずれも患者)の届出があった(表 1)。性別は、男性 7 人、女性 3 人で、年齢は 10 歳未満 2 人、10 歳代 2 人、20 歳代 4 人、40 歳代 1 人、70 歳代 1 人であった。血清型は O26 が 4 人、O157 が 3 人、O8、O55、O91 が各 1 人であった。感染地域はすべて県内で、感染経路は、経口感染 4 人、接触感染 3 人、不明 3 人であった。

表1 腸管出血性大腸菌感染症届出事例

事例番号	診断月日	届出保健所	血清型	ベロ毒素	患者・感染者数
1	6月 7日	松山市	O55	VT1	1
	7月 14日	西条	O26	VT1	1
2	7月 17日	西条	O26	VT1	1
	7月 19日	西条	O26	VT1	1
3	8月 7日	八幡浜	O8	VT1・VT2	1
4	8月 13日	松山市	O157	VT1・VT2	1
5	8月 28日	松山市	O157	VT1・VT2	1
6	10月 17日	松山市	O91	VT1	1
7	11月 9日	四国中央	O157	VT1・VT2	1
8	11月 18日	松山市	O26	VT1	1
合 計					10

・四類感染症

43 疾患のうち 7 疾患, 50 人の届出があった(表 2)。

E 型肝炎は 60 歳代女性 1 人の届出があり, 感染地域は県内で, 感染経路は不明であった。

A 型肝炎は 10 人の届出があり, 性別は男性 3 人, 女性 7 人で, 年齢は 10 歳未満 1 人, 30 歳代 3 人, 40 歳代 1 人, 50 歳代 4 人, 60 歳代 1 人であった。感染地域はすべて県内で, 感染経路は経口感染 7 人, 不明 3 人であった。

重症熱性血小板減少症候群(2013 年 3 月 4 日から届出対象)は 11 人の届出があり, 性別は男性 4 人, 女性 7 人で, 年齢は 50 歳代 2 人, 60 歳代 3 人, 70 歳代 2 人, 80 歳代 3 人, 90 歳代 1 人であった。感染地域は県内 10 人, 県外 1 人で, 11 人中 6 人にマダニ類による刺し口が確認された。

つつが虫病は 30 歳代女性 1 人の届出があり, 感染地域は県内で, 刺し口を認めた。

デング熱は 2 人の届出があり, 10 歳代男性と 20 歳代女性であった。病型はいずれもデング熱で, 感染地域は国内及び国外が各 1 人であった。

日本紅斑熱は 12 人の届出があり, 性別は男性 5 人, 女性 7 人で, 年齢は 20 歳代 1 人, 50 歳代 1 人, 60 歳代 4 人, 70 歳代 5 人, 80 歳代 1 人であった。感染地域はすべて県内で, 12 人中 11 人にマダニ類による刺し口が確認された。

レジオネラ症は 13 人の届出があり, 病型はすべて肺炎型であった。性別は男性 10 人, 女性 3 人で, 年齢は 20 歳代 1 人, 60 歳代 2 人, 70 歳代 3 人, 80 歳代 5 人, 90 歳代 2 人であった。感染地域はすべて県内で, 感染経路は水系感染が 6 人, 不明が 7 人であった。

表2 四類感染症事例

疾患名	届出数
E型肝炎	1
A型肝炎	10
重症熱性血小板減少症候群	11
つつが虫病	1
デング熱	2
日本紅斑熱	12
レジオネラ症	13
合計	50

・五類感染症

22 疾患のうち 15 疾患, 55 人の届出があった(表 3)。

アメーバ赤痢は 5 人の届出があり, 病型は腸管アメーバ症が 3 人, 腸管及び腸管外アメーバ症が 1 人, 腸管外アメーバ症が 1 人であった。性別は男性 4 人, 女性 1 人で, 年齢は 30 歳代 2 人, 40 歳代 2 人, 60 歳代 1 人であった。感染地域は県内が 4 人, 国外が 1 人で, 感染経路は性的接触が 3 人, 経口感染が 1 人, 不明が 1 人であった。

ウイルス性肝炎(E 型肝炎及び A 型肝炎を除く)は 3 人の届出があり, 病型はすべて B 型であった。性別は男性 1 人, 女性 2 人で, 年齢は 10 歳未満, 40 歳代, 60 歳代が各 1 人であった。感染地域はすべて県内で, 感染経路は不明であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(2014 年 9 月 19 日より届出対象)は 80 歳代男性 1 人の届出があり, 感染地域は県内であった。

急性脳炎は 2 人の届出があり, 10 歳未満男性と 10 歳未満女性であった。感染地域は県内で, 感染経路は接触感染, 飛沫・飛沫核感染が各 1 人であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病は 6 人の届出があった。病型はすべて孤発性で, 診断の確実度は, ほぼ確実例が 5 人, 疑い例が 1 人であった。性別は男性 4 人, 女性 2 人で, 年齢は 50 歳代 2 人, 60 歳代 1 人, 70 歳代 2 人, 80 歳代 1 人であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 3 人の届出があり, 性別は男性 1 人, 女性 2 人で, 年齢は 20 歳代, 50 歳代, 70 歳代が各 1 人であった。感染地域はすべて県内で, 感染経路は創傷感染が 1 人, 不明が 2 人であった。

後天性免疫不全症候群は 6 人の届出があり, 病型は無症状病原体保有者が 5 人, AIDS が 1 人であった。性別はすべて男性で, 年齢は 20 歳代 2 人(無症状病原体保有者), 30 歳代 1 人(無症状病原体保有者), 40 歳代 2 人(AIDS, 無症状病原体保有者), 60 歳代 1 人(無症状病原体保有者)であった。感染地域は国内 5 人, 不明 1 人で, 感染経路は同性間性的接触が 4 人, 不明が 2 人であった。

侵襲性インフルエンザ感染症は 2 人の届出があり, 70 歳代男性と 80 歳代女性であった。感染地域は県内で, 感染経路は不明であった。

侵襲性髄膜炎菌感染症は 70 歳代男性 1 人の届出があり, 感染地域は県内で, 感染経路は不明であった。

侵襲性肺炎球菌感染症は 12 人の届出があり, 性別は男性 3 人, 女性 9 人で, 年齢は 10 歳未満 1 人, 20 歳代 1 人, 30 歳代 1 人, 60 歳代 2 人, 70 歳代 4 人, 80 歳代 3

人であった。感染地域はすべて国内(うち県内 11 人)で、感染経路は飛沫・飛沫核感染、不明が各 6 人であった。

水痘(入院例)は(2014 年 9 月 19 日より届出対象)は 2 人の届出があり、20 歳代男性と 30 歳代男性であった。感染地域は県内で、感染経路は飛沫・飛沫核感染であった。

梅毒は 8 人の届出があり、性別はすべて男性で、年齢は 20 歳代 1 人、30 歳代 2 人、40 歳代 3 人、50 歳代 1 人、80 歳代 1 人であった。病型は無症状病原体保有者 1 人、早期顕症梅毒Ⅰ期 2 人、早期顕症梅毒Ⅱ期 4 人、晩期顕症梅毒 1 人で、感染地域は国内 7 人(うち県内 4 人)、不明 1 人で、感染経路はすべて性的接触であった。

播種性クリプトコックス症(2014 年 9 月 19 日より届出対象)は 40 歳代男性 1 人の届出があり、感染地域は県内で、感染経路は不明であった。

破傷風は 50 歳代女性 1 人の届出があり、感染地域は県内で、感染経路は創傷感染であった。

風しんは 2 人の届出があり、20 歳代男性と 20 歳代女性であった。感染地域は国内、県内が各 1 人で、感染経路は飛沫・飛沫核感染、その他または不明が各 1 人であった。

表3 五類感染症事例

疾患名	届出数
アメーバ赤痢	5
ウイルス性肝炎	3
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1
急性脳炎	2
クロイツフェルト・ヤコブ病	6
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3
後天性免疫不全症候群	6
侵襲性インフルエンザ菌感染症	2
侵襲性髄膜炎菌感染症	1
侵襲性肺炎球菌感染症	12
水痘(入院例)	2
梅毒	8
播種性クリプトコックス症	1
破傷風	1
風しん	2
合計	55

・新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症 3 疾患の患者報告はなかった。

(2) 定点把握対象疾患

・週報対象疾患

週報対象の 19 疾患について、定点からの週別患者報告数を表 4 に示した。

インフルエンザの報告数は 19,603 人(定点当たり 321.4 人)で、過去 5 年の平均(以下、例年とする)の 1.0 倍であった。1 月上旬から増加し、2 月下旬に流行のピークに達した後、5 月下旬に終息した。

RS ウイルス感染症の報告数は 1,536 人(定点当たり 41.5 人)で例年の 1.3 倍であった。9 月上旬から増加し、12 月中旬にピークに達した。東予地区で多く、特に今治保健所で多発した。

咽頭結膜熱の報告数は 963 人(定点当たり 26.0 人)で例年の 2.0 倍であった。1 月上旬から 2 月下旬、4 月下旬から 8 月上旬に報告数が多く、特に今治保健所で夏季に流行した。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 3,182 人(定点当たり 86.0 人)で例年の 1.2 倍であった。1 月から 7 月と 10 月から 12 月に報告数が多く、特に中予保健所で春夏及び冬季に多発した。

感染性胃腸炎の報告数は 17,230 人(定点当たり 465.7 人)で例年の 1.0 倍であった。1 月上旬から増加し、7 月には終息した。大きな流行とならず、例年と同程度の流行規模となった。

水痘の報告数は 2,272 人(定点当たり 61.4 人)で例年の 0.7 倍であった。春から初夏に増加する平均的な推移を示した。

手足口病の報告数は 1,898 人(定点当たり 51.3 人)で例年の 0.6 倍であった。8 月下旬から増加が始まり、12 月下旬まで流行が続いた。

伝染性紅斑の報告数は 45 人(定点当たり 1.2 人)で例年の 0.1 倍であった。年間を通じて報告数が少なく、1991 年以降最小の発生規模であった。

突発性発疹の報告数は 1,405 人(定点当たり 38.0 人)で例年の 0.9 倍であった。例年と同様に、年間を通じて報告数に変動はなかった。

百日咳の報告数は 40 人(定点当たり 1.1 人)で例年の 1.7 倍であった。年間を通じて低レベルで推移した。

ヘルパンギーナの報告数は 1,627 人(定点当たり 44.0 人)で例年の 1.3 倍であった。6 月下旬に増加し始め、7 月中旬にピークを迎えた。

流行性耳下腺炎の報告数は 523 人(定点当たり 14.1 人)で例年の 0.3 倍であった。1991 年以降, 3 番目に小さな発生規模であった。

急性出血性結膜炎の報告数は 3 人(定点当たり 0.4 人)で例年の 0.5 倍であった。

流行性角結膜炎の報告数は 807 人(定点当たり 100.9 人)で例年の 1.4 倍であった。今治保健所, 八幡浜保健所で年間を通して報告数が増加し, 過去 5 年間では, 最も大きな発生規模であった。

ロタウイルス胃腸炎の報告数は 91 人(定点あたり 15.2 人)であった。3 月下旬から 6 月下旬にかけて今治保健所からの報告が多かった。

細菌性髄膜炎の報告数は 1 人(定点当たり 0.2 人)で例

年の 0.5 倍であった。

無菌性髄膜炎の報告数は 5 人(定点当たり 0.8 人)で例年の 0.4 倍であった。病原体はエコーウイルス 11 型, コクサッキーウイルス B2 型, コクサッキーウイルス B3 型が各 1 人であった。

マイコプラズマ肺炎の報告数は 19 人(定点当たり 3.2 人)で例年の 0.1 倍であった。年間を通じて低いレベルで推移した。

クラミジア肺炎の報告数は 7 人(定点当たり 1.2 人)で例年の 2.7 倍と, 1999 年以降 2 番目に多い発生となった。西条保健所と今治保健所で, 1 月上旬から 4 月上旬にかけて散発し, 2011 年以降毎年の報告が続いている。

表4 定点把握五類感染症 週別患者報告数

疾患\週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27		
インフルエンザ	87	238	477	981	1351	1303	1399	1693	1814	1388	1583	1349	880	427	261	268	252	165	85	64	50	38	14	8	5	3	2		
(定点当たり)	1.4	3.9	7.8	16.1	22.1	21.4	22.9	27.8	29.7	22.8	26.0	22.1	14.4	7.0	4.3	4.4	4.1	2.7	1.4	1.0	0.8	0.6	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0		
RSウイルス感染症	30	56	34	26	28	20	18	17	9	12	21	7	4	6	5	7	2	2	3	2	3	4	2	3	1	0	2	6	
(定点当たり)	0.8	1.5	0.9	0.7	0.8	0.5	0.5	0.5	0.2	0.3	0.6	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	
咽頭結核熱	22	32	24	28	29	28	18	25	13	16	12	6	14	8	7	27	31	19	17	28	33	37	26	38	23	35	20		
(定点当たり)	0.6	0.9	0.6	0.8	0.8	0.8	0.5	0.7	0.4	0.4	0.3	0.2	0.4	0.2	0.2	0.7	0.8	0.5	0.5	0.8	0.9	1.0	0.7	1.0	0.6	0.9	0.5		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	62	70	85	68	72	72	61	67	54	60	33	49	27	35	29	70	49	37	61	80	75	72	49	83	87	78		
(定点当たり)	0.9	1.7	1.9	2.3	1.8	1.9	1.9	1.6	1.8	1.5	1.6	0.9	1.3	0.7	0.9	0.8	1.9	1.3	1.0	1.6	2.2	2.0	1.9	1.3	2.2	2.4	2.1		
感染性胃腸炎	197	457	407	511	510	426	348	380	412	385	386	345	358	404	402	518	521	458	491	578	568	588	535	352	362	327	288		
(定点当たり)	5.3	12.4	11.0	13.8	13.8	11.5	9.4	10.3	11.1	10.4	10.4	9.3	9.7	10.9	10.9	14.0	14.1	12.4	13.3	15.6	15.4	15.4	14.5	14.5	9.5	9.8	8.8	7.8	
水痘	38	89	62	70	35	69	52	65	60	51	56	48	51	46	46	31	31	44	53	51	47	66	67	46	80	59	67		
(定点当たり)	1.0	2.4	1.7	1.9	0.9	1.9	1.4	1.8	1.6	1.4	1.5	1.3	1.4	1.2	1.2	0.8	0.8	1.2	1.4	1.4	1.3	1.8	1.8	1.2	2.2	2.6	1.8		
手足口病	2	1	4	3	3	2	4	1	2	1	0	0	0	1	0	1	1	3	3	0	6	9	4	8	9	11	8		
(定点当たり)	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.3	0.2		
伝染性紅斑	0	2	1	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0		
(定点当たり)	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
突発性発疹	12	27	28	29	19	19	18	30	27	20	23	38	32	33	17	39	35	31	27	36	31	35	35	26	40	30	36		
(定点当たり)	0.3	0.7	0.8	0.8	0.5	0.5	0.5	0.8	0.7	0.5	0.6	1.0	0.9	0.9	0.5	1.1	0.9	0.8	0.7	1.0	0.8	0.9	0.9	0.7	1.1	0.8	1.0		
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	2	0	1	1	5	3	5	3	0	1		
(定点当たり)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0		
ヘルパンギーナ	2	7	0	1	1	1	3	1	1	1	2	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	1	3	18	36	41	55
(定点当たり)	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.5	1.0	1.1	1.5	
流行性耳下腺炎	5	4	4	5	7	15	5	18	14	7	18	4	5	5	8	9	7	7	6	9	6	11	7	10	13	11	12		
(定点当たり)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4	0.1	0.5	0.4	0.2	0.5	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.3	0.4	0.3	0.3		
疾患\週	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	合計			
インフルエンザ	1	1	0	0	1	0	0	1	0	5	8	17	23	15	9	6	18	25	45	110	115	208	492	837	1481	19,603			
(定点当たり)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.4	0.2	0.1	0.1	0.1	0.3	0.4	0.7	1.8	1.9	3.4	8.1	13.7	24.3	321.4			
RSウイルス感染症	0	0	2	4	12	14	18	19	72	85	92	78	73	55	39	35	47	43	50	71	54	73	104	92	76	1,536			
(定点当たり)	0.0	0.0	0.1	0.1	0.3	0.4	0.5	0.5	1.9	2.3	2.5	2.1	2.0	1.5	1.1	0.9	1.3	1.2	1.4	1.9	1.5	2.0	2.8	2.5	2.1	41.5			
咽頭結核熱	25	30	26	35	32	21	18	15	14	9	12	6	6	6	6	2	7	12	6	10	6	12	16	8	7	963			
(定点当たり)	0.7	0.8	0.7	0.9	0.9	0.6	0.5	0.4	0.4	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.3	0.2	0.3	0.2	0.3	0.4	0.2	0.2	26.0			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	94	75	68	29	45	22	33	24	38	32	24	37	57	40	34	62	57	54	73	92	94	126	134	115	103	3,182			
(定点当たり)	2.5	2.0	1.8	0.8	1.2	0.6	0.9	0.6	1.0	0.9	0.6	1.0	1.5	1.1	0.9	1.7	1.5	1.5	2.0	2.5	2.5	3.4	3.6	3.1	2.8	86.0			
感染性胃腸炎	242	283	175	180	208	166	181	178	171	171	142	153	134	147	126	147	163	170	215	265	281	358	448	477	555	17,230			
(定点当たり)	6.5	7.6	4.7	4.9	5.6	4.5	4.9	4.8	4.6	4.6	3.8	4.1	3.6	4.0	3.4	4.0	4.4	4.6	5.8	7.2	7.6	9.7	12.1	12.9	15.0	465.7			
水痘	61	53	39	34	31	23	29	36	20	31	18	33	22	28	16	23	24	21	27	26	56	41	42	39	19	2,272			
(定点当たり)	1.6	1.4	1.1	0.9	0.8	0.6	0.8	1.0	0.5	0.8	0.5	0.9	0.6	0.8	0.4	0.6	0.6	0.6	0.7	0.7	1.5	1.1	1.1	1.1	0.9	61.4			
手足口病	10	15	22	28	27	29	53	58	48	62	77	36	72	100	61	58	96	107	100	123	107	155	134	138	95	1,898			
(定点当たり)	0.3	0.4	0.6	0.8	0.7	0.8	1.4	1.6	1.3	1.7	2.1	1.0	1.9	2.7	1.6	1.6	2.6	2.9	2.7	3.3	2.9	4.2	3.6	3.7	2.6	51.3			
伝染性紅斑	0	0	1	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	3	2	2	0	3	6	1	6	2	1	45			
(定点当たり)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.2	0.0	0.2	0.1	0.0	1.2			
突発性発疹	31	33	24	29	24	12	25	40	23	29	21	20	29	17	29	23	31	20	25	27	22	27	28	19	24	1,405			
(定点当たり)	0.8	0.9	0.6	0.8	0.6	0.3	0.7	1.1	0.6	0.8	0.6	0.5	0.8	0.5	0.8	0.6	0.6	0.5	0.7	0.7	0.6	0.7	0.8	0.5	0.6	38.0			
百日咳	2	2	0	2	1	0	0	1	0	1	1	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	40			
(定点当たり)	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1			
ヘルパンギーナ	123	179	155	159	140	112	115	89	63	69	39	45	17	31	15	10	19	23	3	9	9	7	7	8	3	1,627			
(定点当たり)	3.3	4.8	4.2	4.3	3.8	3.0	3.1	2.4	1.7	1.9	1.1	1.2	0.5	0.8	0.4	0.3	0.5	0.6	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	44.0			
流行性耳下腺炎	8	5	8	7	11	10	10	8	9	13	16	19	9	21	14	6	9	8	13	8	13	21	10	18	17	523			
(定点当たり)	0.2	0.1	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.4	0.4	0.5	0.2	0.6	0.4	0.2	0.2	0.2	0.4	0.2	0.2	0.4	0.6	0.3	0.5	14.1			

表4 定点把握五類感染症 週別患者報告数(続き)

疾患\週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
急性出血性結膜炎 (定点当たり)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎 (定点当たり)	9	24	21	20	20	17	25	19	20	16	16	21	21	13	13	24	15	8	20	19	13	12	11	13	22	21	16
ロタウイルス胃腸炎 (定点当たり)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	7	1.9	1.0	2.5	2.4	1.6	1.5	1.4	1.6	2.8	2.6	2.0
細菌性髄膜炎(真菌性を含む) (定点当たり)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.8	1.2	1.5	2.7	1.8	1.8	1.0	1.2	0.2	0.3	0.5	0	0.8
無菌性髄膜炎 (定点当たり)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
マイコプラズマ肺炎 (定点当たり)	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く) (定点当たり)	0	0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.3	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
クラミジア肺炎(オウム病を除く) (定点当たり)	0	1	1	0	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く) (定点当たり)	0.0	0.2	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

疾患\週	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	合計	
急性出血性結膜炎 (定点当たり)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
流行性角結膜炎 (定点当たり)	19	21	14	24	15	6	26	26	10	20	9	8	7	11	12	10	11	10	5	11	13	8	18	8	16	807	
ロタウイルス胃腸炎 (定点当たり)	2.4	2.6	1.8	3.0	1.9	0.8	3.3	3.3	1.3	2.5	1.1	1.0	0.9	1.4	1.5	1.3	1.4	1.3	0.6	1.4	1.6	1.0	2.3	1.0	2.0	100.9	
細菌性髄膜炎(真菌性を含む) (定点当たり)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	91	
無菌性髄膜炎 (定点当たり)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.2	
マイコプラズマ肺炎 (定点当たり)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
クラミジア肺炎(オウム病を除く) (定点当たり)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く) (定点当たり)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く) (定点当たり)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く) (定点当たり)	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	19	
クラミジア肺炎(オウム病を除く) (定点当たり)	0.2	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	
クラミジア肺炎(オウム病を除く) (定点当たり)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	
クラミジア肺炎(オウム病を除く) (定点当たり)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	

表5 定点把握五類感染症 月別患者報告数

疾患\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
急性出血性結膜炎	9	5	8	11	11	15	6	9	13	15	4	2	108
流行性角結膜炎	0.8	0.5	0.7	1.0	1.0	1.4	0.5	0.8	1.2	1.4	0.4	0.2	9.8
ロタウイルス胃腸炎	2	2	7	3	5	4	6	3	4	2	4	1	43
細菌性髄膜炎	0.2	0.2	0.6	0.3	0.5	0.4	0.5	0.3	0.4	0.2	0.4	0.1	3.9
無菌性髄膜炎	0	1	2	1	5	2	4	7	3	1	1	2	29
マイコプラズマ肺炎	0.0	0.1	0.2	0.1	0.5	0.2	0.4	0.6	0.3	0.1	0.1	0.2	2.6
クラミジア肺炎	7	8	4	6	6	7	5	10	3	3	4	3	66
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0.6	0.7	0.4	0.5	0.5	0.6	0.5	0.9	0.3	0.3	0.4	0.3	6.0
ベンゾピレン耐性肺炎球菌感染症	16	12	13	9	8	4	8	5	7	6	9	9	106
肺炎球菌感染症	2.7	2.0	2.2	1.5	1.3	0.7	1.3	0.8	1.2	1.0	1.5	1.5	17.7
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5

・月報対象疾患

月報対象の7疾患について、定点からの月別患者報告数を表5に示した。

性器クラミジア感染症の報告数は108人(定点当たり9.8人)で例年の0.8倍であった。性別は男性77人、女性31人であった。

性器ヘルペスウイルス感染症の報告数は43人(定点当たり3.9人)で例年の0.8倍であった。性別は男性38人、女性5人であった。

尖圭コンジローマの報告数は29人(定点当たり2.6人)で例年の0.9倍であった。性別はすべて男性であった。

淋菌感染症の報告数は66人(定点当たり6.0人)で例年の0.8倍であった。性別は男性59人、女性7人であった。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の報告数は106人(定点当たり17.7人)で例年の0.7倍であった。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告は無かった。

薬剤耐性緑膿菌感染症の報告数は3人(定点当たり0.5人)で例年の0.6倍であった。

(3)結核

「結核登録者情報システム」における集計内容を示す。

結核患者発生状況(新登録患者)を表6に示した。

平成26年の結核新登録患者数は188人で、前年の171人から17人増加した。罹患率(人口10万対率)は13.5で、前年の12.2から1.3増加した。新登録患者のうち、排菌により感染拡大の危険が高い喀痰塗沫陽性肺結核の患者数は69人で、前年の64人から5人増加、罹患率は4.9で、前年の4.6から0.3上昇した。新登録肺結核患者に占める喀痰塗沫陽性者は48.3%(前年49.6%)であった。新登録患者のうち70歳以上の高齢結核患者は134人(前年比24人増)で、全体の71.3%(前年比7.0ポイント増)を占めた。年齢階級別の罹患率は例年と同様の傾向を示した。保健所別の罹患率を比較すると、高い順に、宇和島保健所18.9(前年比0.5減)、四国中央保健所18.2(前年比12.6増)、八幡浜保健所17.0(前年比9.0増)、西条保健所14.0(前年比0.1増)、中予保健所12.1(前年比増減なし)、今治保健所11.4(前年比1.9増)、松山市保健所11.2(前年比1.8減)であった。前年と比較すると、四国中央保健所、西条保健所、今治保健所、八幡浜保健所で増加し、松山市保健所、宇和島保健所では減少した。

表6 結核発生状況(新登録患者)

		活動性結核					潜在性結核感染症 (別掲)
		総数	肺結核活動性			肺外結核 活動性	
			喀痰塗沫 陽性	その他の 結核菌 陽性	菌陰性 ・ その他		治療中
保 健 所 別	四国中央	16	7	1	3	5	1
	西条	32	9	8	8	7	11
	今治	19	10	4	3	2	4
	松山市	58	23	14	4	17	22
	中予	16	4	4	4	4	2
	八幡浜 宇和島	25 22	5 11	11 5	2 3	7 3	1 5
愛媛県合計		188	69	47	27	45	46
年 齢 別	0-4						2
	5-9						0
	10-14						0
	15-19						0
	20-29	6	2		3	1	4
	30-39	6	2	2	2	0	3
	40-49	5	1	1	2	1	12
	50-59	16	2	3	7	4	16
	60-69	21	8	5	3	5	5
70-	134	54	36	10	34	4	

* 潜在性結核感染症:結核の無症状病原体保有者のうち医療を必要とするもの

2 細菌検査状況

感染症の病原体に関する情報を収集するため、愛媛県感染症発生動向調査事業病原体検査要領に基づき、病原体検査を実施した。

(1) 全数把握対象感染症

・腸管出血性大腸菌感染症

県内で腸管出血性大腸菌(EHEC)患者が発生した場合には、当所で分離菌株の確認検査を実施するとともに、国立感染症研究所に菌株を送付している。国立感染症研究所ではEHEC O157, O26, O111についてはMLVA (Multilocus variable-number tandem-repeat analysis)法による型別を実施し、その他のEHECについてはパルスフィールドゲル電気泳動(PFGE)法による型別を実施し、全国規模の同時多発的な集団発生“diffuse outbreak (散在的集団発生)”を監視している。当所では、分離株の生化学的性状、O抗原及びH抗原の血清型別、ベロ毒素(VT)の型別に加え、PFGE法を実施し、EHECO157, O26, O111についてはMLVA法を実施しEHECO157についてはIS (Insertion Sequence)-Printing System(東洋紡) (IS法)を実施した。

薬剤感受性試験はCLSIの抗菌薬ディスク感受性試験実施基準に基づき、アンピシリン(ABPC)、クロラムフェニコール(CP)、ストレプトマイシン(SM)、テトラサイクリン(TC)、カナマイシン(KM)、スルファメトキサゾール/トリメトプリム合剤(SXT)、ホスホマイシン(FOM)、シプロフロキサシン(CPFX)、ナリジクス酸(NA)、セフトキシム(CTX)、セフトジジム(CAZ)、

イミペネム(IPM)の12薬剤を用いた。

2014年は県内で8事例10名の患者が発生したが、解析を実施した事例は7事例であり患者由来菌株9株について解析を行った(表1)。分離株のO血清型別はO26が4株、O157が3株、O55, O91が各1株であった。H型別及びVT型別を併せた分類では、O26:H11 VT1が4株、O157:H- VT1&2が2株、O157:H7 VT1&2が1株、O55:H- VT1, O91:H14 VT1が各1株であった。

事例2(O26:H11 VT1)は、家族内での発生と患者が通園する保育施設での発生であった。3株ともPFGE型(O26-14-01)及び国立感染症研究所が実施したMLVA型(14m2044)は同じパターンを示した。

事例4(O157:H-VT1&2)は、MLVA型が他県と一致したが疫学的な関連は見いだせなかった。

事例6(O157:H7 VT1&2)は、家族内で3名の発生があったが、2名については他県に届出があり、菌株については、菌株分与を依頼し当所において解析したところ、ISコードは一致し、PFGE型は2株が同一パターンを示し、無症状病原体保有者由来株(1株)は1バンド違いであった。また、国立感染症研究所で実施しているMLVA型はすべて一致した。

薬剤感受性試験の結果、SM・KMの2剤耐性、ABPC・SMの2剤耐性が各1株、SM耐性が1株あったが、ESBL産生菌は確認されなかった。

表7 愛媛県における腸管出血性大腸菌感染症分離株(2014年)

事例番	診断月日	保健所名	疫学情報	患者感染者数 (無症状者再掲)	血清型		VT型別	病原因子	耐性薬剤	PFGE型 ¹⁾	MLVA型 ²⁾	ISコード ³⁾	分離株数
					O	H							
1	6/7	松山市	散发	1	55	-	1	eaeA	SM, KM				1
2	7/14~ 7/19	西条	散发	3 (1)	26	11	1	eaeA	-	026-14-01	14m2044		3
3	8/13	松山市	散发	1	157	-	1, 2	eaeA	SM	0157-14-1	14m0244	615457-311656	1
4	8/28	松山市	家族内	1	157	-	1, 2	eaeA	ABPC, SM	0157-14-2	14m0261	307575-611657	1
5	10/17	松山市	散发	1	91	14	1		-				1
6	11/9	四国中央	散发	1	157	7	1, 2	eaeA	-	0157-14-3	14m0449	317575-611757	1
7	11/18	松山市	散发	1	26	11	1	eaeA	-	026-14-02	13m2021		1
計				9 (1)									9

1) PFGE型：バンドが1本でも異なれば、違ったサブタイプ名となる。

2) MLVA (Multilocus variable-number tandem-repeat analysis) は、ゲノム上に散在するリピート配列のリピート数の違いを基に菌株を型別する方法。国立感染症研究所によって付与されたMLVA型。同一のMLVA型は同一の名前で表記し、分離年、m、番号で示し、SLV (single locus variant) の関係にあるMLVA型については分離年、c、番号となる。

3) IS (Insertion sequence: 大腸菌ゲノムの内部を移動する配列) と4種の病原因子の有無を、マルチプレックスPCRで検出することにより、菌のタイピングを行う検査法である。

表8 愛媛県における劇症型溶血性レンサ球菌感染症分離株(2014年)

診断月日	保健所名	菌種	T蛋白		M蛋白	
			血清型別	血清型別	emm 遺伝子型別	
3月7日	松山市	G群溶血性レンサ球菌			stG485	
5月26日	宇和島	<i>Streptococcus pyogenes</i> (A群溶血性レンサ球菌)	TB3264	型別不能	emm89	
9月18日	宇和島	G群溶血性レンサ球菌			stG6792	

・劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2014年に3例の届出があった。1例はA群溶血性レンサ球菌であり、2例はG群溶血性レンサ球菌であった。A群溶血性レンサ球菌について当所でT血清型別を行った後、国立感染症研究所においてM血清型別及びemm遺伝子型別を行った。血清型はT血清型別はTB3264、M型別は型別不能、emm遺伝子型別はemm89であった。2例のG群溶血性レンサ球菌については、emm遺伝子型別はstG485、stG6792が各1例であった。なお、国立感染症研究所で把握している劇症型/重症A群溶菌感染症のうち、emm89による症例は846症例中86例目の報告である。G群溶血性レンサ球菌は、国立感染症研究所で把握している劇症型/重症G群溶菌感染症のうち、emm型がstG485による症例は202症例中27例目の報告であり、stG6792による症例は228症例中58例目の報告であった(表8)。

2) 定点把握対象感染症

・A群溶血性レンサ球菌感染症

咽頭ぬぐい液をSEB培地で増菌後、羊血液寒天培地で分離を行った。β溶血を認めた集落について溶血性レンサ球菌の同定検査および群別試験を実施した。

病原体定点から搬入された1件の咽頭ぬぐい液の検査を実施したが溶血性レンサ球菌は分離されなかった。

感染性胃腸炎

検査対象病原体は主として赤痢菌、病原性大腸菌、サルモネラ属菌、病原性ビブリオ、カンピロバクター及びセレウス菌とし、通常5種類の選択分離培地上に発

育した典型的な集落を釣菌し、生化学的性状試験及び血清学的試験により同定した。

大腸菌は市販免疫血清で血清型別を実施すると共に、11種類(eaeA, astA, aggR, bfpA, invE, elt, esth, ipaH, EAF, CVD432, stx)の病原因子関連遺伝子の有無をPCR法で確認し、腸管出血性大腸菌(EHEC)、腸管侵入性大腸菌(EIEC)、腸管毒素原性大腸菌(ETEC)、腸管病原性大腸菌(EPEC)及び腸管凝集付着性大腸菌(EAggEC)に分類した。

病原細菌検出状況を表9及び表10に示す。小児を中心に392検体の糞便について病原菌検索を行なった。その結果、病原性大腸菌13株、サルモネラ属菌2株、セレウス菌1株の計16株が分離された。年間の病原細菌検出率は4.1%(16/392)で、昨年と比べると低い検出率であり、ほぼ年間を通じて検出された。

大腸菌は、PCRの結果、陽性腸管病原性大腸菌(EPEC)の9株がeaeA陽性、1株がeaeA, astA陽性であった。腸管凝集付着性大腸菌(EAggEC)の1株がaggR, CVD432陽性であった。

サルモネラ属菌は、S. Enteritidisが2株分離された。

セレウス菌は1株が分離され、下痢毒(エンテロトキシン)が検出された。

その他、カンピロバクター、赤痢菌、病原ビブリオ等は分離されなかった。

百日咳

百日咳疑い患者から採取された咽頭ぬぐい液について、遺伝子増幅検査(LAMP法)を実施した。

病原体定点から搬入された1件の咽頭ぬぐい液の検査を実施したが、百日咳菌は検出されなかった。

表9 愛媛県における感染性胃腸炎患者からの病原細菌検出状況(年別)

病原細菌		2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	
病原大腸菌	腸管毒素原性大腸菌	OUT	1		2	2	
	腸管病原性大腸菌	O1	1				
		O8					1
		O20				1	
		O55		1			
		O63			1	1	
		O86a			1		
		O103			1		
		O119	3				
		O121			1		
		O128		2		2	1
		O145		1	2		
		O153	1		1	1	
		O164	1				
		O UT	27	10	6	13	10
	腸管凝集付着性大腸菌	O78	1	1		2	
		O86a		1		3	
		O111	2	1	1		
		O119	1				
		O126	2	2	6	6	
O127a		1	1	4	6		
O UT		5	5	2	9	1	
小計	46	25	28	46	13		
<i>Campylobacter jejuni</i>		5	6	2	1		
<i>Campylobacter coli</i>		1					
<i>Campylobacter lari</i>		2					
<i>Salmonella</i> Oranienburg (O7)							
<i>Salmonella</i> Thompson (O7)				1	1		
<i>Salmonella</i> Virchow (O7)		1					
<i>Salmonella</i> Braenderup (O7)		1					
<i>Salmonella</i> (O7)		1					
<i>Salmonella</i> Manhattan (O8)				1			
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9)		3	5	2		2	
<i>Bacillus cereus</i>			1			1	
計		60	38	34	48	16	
検出数/検体数 (%)		(15.3)	(9.7)	(6.4)	(9.4)	(4.1)	
検査検体数		393	391	531	510	392	

表10 愛媛県における感染性胃腸炎患者からの病原細菌検出状況(2014年)

病原細菌		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
腸管病原性大腸菌	O8		1											1
	O128						1							1
	O UT		1		1	1	1			1	1	1	3	10
	小計		2		1	1	2			1	1	1	3	12
腸管凝集付着性大腸菌	O UT								1					1
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9)									2					2
<i>Bacillus cereus</i>						1								1
計			2		1	2	2	2	1	1	1	1	3	16
検出数/検体数 (%)			(4.3)		(2.0)	(4.2)	(4.8)	(4.9)	(4.8)	(4.8)	(4.0)	(5.9)	(10.3)	(4.1)
検査検体数		36	47	16	49	48	42	41	21	21	25	17	29	392

3 ウイルス検査状況

(1) 全数把握対象感染症

保健所からの依頼を受けた検体について遺伝子増幅法によるウイルス検査を実施し、必要に応じて国立感染症研究所へ確認検査を依頼した。月別のウイルス検出状況について表 11 に示した。

- ・重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルス

SFTS 疑い患者検体 33 例から検出されたウイルスは 12 例(検出率 36.4%)であり、ダニの活動が活発化する春から夏に検出された。

- ・A型肝炎ウイルス

A型肝炎患者検体 10 例すべてからA型肝炎ウイルスが検出された。A型肝炎ウイルスの検出は3月に集中していた。

- ・デング熱ウイルス

デング熱疑い検体 5 例のうち 1 例からデング熱ウイルスが検出された。この 1 例については、2014 年 8 月の代々木公園におけるデング熱国内発生に関連事例であった。

(2) 定点把握対象感染症

愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱に定められた指定届出機関のうち、病原体定点等の医療機関において、ウイルス検査対象疾患、呼吸器感染症及び発疹症等から採取された検体についてウイルス学的検査を実施した。呼吸器感染症等患者検体からのウイルス分離には FL, RD-18s, Vero 細胞を常用し、インフルエンザ流行期には MDCK 細胞を併用した。また必要に応じて RT-PCR 法及びリアルタイム RT-PCR 法を実施した。感染性胃腸炎患者検体からのウイルス検索には、電子顕微鏡法、RT-PCR 法及びリアルタイム RT-PCR 法を用いた。

呼吸器感染症等患者検体 420 例から検出されたウイルスは 175 例(検出率 42.7%)、感染性胃腸炎患者検体 330

例から検出されたウイルスは 172 例(検出率 52.1%)であった。

呼吸器感染症等患者検体からの月別ウイルス検出状況を表 12 に、感染性胃腸炎患者検体からの月別ウイルス検出状況を表 13 に示した。

インフルエンザウイルスは、1 月～5 月と 10 月～12 月に検出された。内訳は、AH3 亜型が 1 月～5 月、10 月～12 月に計 34 例、B 型が 1 月～3 月と 5 月に計 12 例、AH1pdm09 亜型が、1 月～5 月に計 50 例検出された。本年の流行シーズン(2013/2014 シーズン)は、AH1pdm09 亜型を主流とした AH3 亜型、B 型の混在パターンを示した。

エンテロウイルスは、毎年夏季に流行がみられ、本年も主に 5～8 月に検出された。手足口病患者検体からはコクサッキーウイルス A (CA) 16 型が 12 例、ライノウイルスが 4 例検出され、手足口病の主な原因ウイルスは、CA16 型であった。また、エコーウイルス(Echo) 11 型は、無菌性髄膜炎、上気道炎、下気道炎、不明熱患者検体から検出された。不明発疹症患者検体からは、Echo18 型、CA16 型、エンテロウイルス 71 型及びライノウイルスが検出された。

アデノウイルス(Ad)は、1 型が 8 例、2 型が 6 例、3 型が 2 例、4 型が 2 例、5 型が 1 例、6 型が 3 例、8 型が 1 例、37 型が 2 例検出された。Ad は、概して下気道炎、不明熱患者検体からの検出が多かった。

感染性胃腸炎患者検体からのウイルス検出状況は、ノロウイルスが 83 例(GI:3 例, GII:80 例)と検出割合が最も多く(検出率 51.6%)、次いでサポウイルス 37 例(23.0%)、ロタウイルス 24 例(14.9%)、アストロウイルス 21 例(11.8%)、Ad7 例(4.3%)であった。

感染性胃腸炎患者検体からの月別ウイルス検出数・検出率の増減は、患者数の増減とよく一致しており、検出されたこれらのウイルスが、冬季を中心とする感染性胃腸炎患者発生の要因となったことが示された。

表 11 全数把握対象感染症疑い患者検体からの月別ウイルス検出状況

ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
SFTS				2	2	2	3	3					12
A型肝炎		1	8		1								10
デング熱								1					1

表 12 呼吸器感染症等患者検体からの月別ウイルス検出状況

ウイルス型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
コクサッキーA群	16 型							1	2	3	2	4	1	13
コクサッキーB群	2 型							1			1			2
	3 型							3	2					5
エコー	11 型					1	3	3	2					9
	18 型					2	3		1					6
エンテロ	71 型	1												1
ライノ						1	4	1	3		2			11
インフルエンザ	AH3	5	6	4	1	1					1	4	12	34
	B	3	4	4		1								12
	AH1pdm09	12	22	13	1	2								50
RS		2	1									1		4
ムンプス										1				1
アデノ	1 型		6	1								1		8
	2 型	1	1	2				2						6
	3 型	2												2
	4 型								1	1				2
	5 型	1												1
	6 型			1			2							3
	8 型					1								1
	37 型						1						1	2
NT		1									1		2	
合 計		27	41	25	3	11	15	8	9	5	6	11	14	175
検 査 数		53	73	56	18	22	62	44	17	10	11	26	28	420

表 13 散発性感染性胃腸炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

ウイルス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ノロウイルスGI		2								1			3
ノロウイルスGII	14	20	3	6	15	8	1				3	10	80
サポウイルス	1	4	2	5	6	2	3	1		2	3	8	37
ロタウイルス		1		17	4							2	24
アストロウイルス	1	1		12	5	1					1		21
アデノウイルス	1					1	1			1	2	1	7
合 計	17	28	5	40	30	12	5	1	0	4	9	21	172
検 査 数	36	39	13	48	42	31	27	13	13	19	15	34	330